

共に限界をのりこえる

アメリカ社会変革フォーラム UER 代表団のリーダーシップをとって

わたしたち RC のリーダー 21 名は、今、アメリカ社会変革フォーラムから帰ってきたばかりです。わたしたちはフォーラムに集まっていた進歩主義的運動家達に RC の人間理解を伝えるため、共に力を合わせました。その人間理解とはつまり、人間の本質、傷の記憶ゆえに感情をひどく害しやすくなっていること、傷のパターンと抑圧がどのように関係性を持っているのか、ディスチャージによって抑圧の傷から回復する力があること——こうした理解です。

アメリカのジョージア州アトランタに集合し、嬉しいことには全員が気にかけていること（重要に思っていたこと）のために一緒に取り組める機会を得ることができました。皆が恐怖と不安も感じていました。わたしたちがクリアになっていなかった傷が早速、浮上してきたのです。

代表団の半数は以前の United to End Racism（「人種差別を終わらせるための連合」、以下では UER と表記）のプロジェクトに参加し、幾人かは重要な経験をしていましたが、あとの半数は経験がほとんど、もしくはまったくありませんでした。わたしたちは年齢においても人種においてもまた階級においても多種多様でした。ユダヤ人もおれば異邦人¹もあり、男も女もいました。すべての文書はスペイン語に翻訳され（これは好評でした）、わたしたちのプレゼンテーションでもスペイン語の通訳がつかしました。またスペイン語でのリスニングプロジェクトも行うことができました。

わたしは 2001 年に南アフリカのダーバンに UER の代表団を組織したときと同じように今回も代表団を組織したのです²。しかし、私はもう孤独から抜け出していたため、以前と違うように考えることもできました。わたしはアトランタに到着するまでの間に代表の全員と接触しました。（主に電話会議によってですが。）そして自分で決断したのは、フォーラムでの主要な役割として、代表一人ひとりをつながりを保ち、全員がよくつながっていることができるように配慮しようということでした。もちろん私たちが望んでいたことは UER と RC をうまく紹介することでしたが、それとともに、たとえ何が起ころうとお互いに配慮し支えあうグループとしてつながり続けることを目指したのです。

1 異邦人：ユダヤ人がユダヤ人以外の人々を指すときに使う言葉

2 2001 年 8 月に、UER が南アフリカのダーバンに行われていた国連の人種差別反対世界会議の NGO フォーラムに代表団を派遣しました

過去にも努力はしましたが、難しい局面でつながりつづけるということはできませんでした。過去の抑圧の傷跡があたかも今起こっているも現実であるかのように感じられたのです。それがわたしたちを混乱させ、お互いや特定のグループの人々から距離を置くようになってしまいました。そのために現状の冷静な理解を保つのに大変苦勞しました。十分に、しかもすばやく、ディチャージするのに苦勞しました。つながりつづけるのに大いに骨をおったのです。

私たちがお互いのつながりを感じてさえいれば、UERの私たちが何者であるかを十分に示すことができ、誤りがあれば速やかに修正しやすくなるということは分かっていました。それまで準備が十分にできていたため、それを実現する力があるだろうと思い、そして実際、今回は実現できたのです。その一週間の間、だんだんとお互いに近づきました。自分のことをもっともって見せました。私たちは一緒に何度でも笑い、振るえ、泣き叫びを繰り返し、疲労が増し余裕がなくなってきたにもかかわらず粘り強く、私たちのさまざまな働きをしました。全員が罪悪感の古傷と戦いました。自分たちがうまくやっていること、一人一人がそこにいてよいこと、みんな一緒にいたいと思っていること、自分たちが犯す過ちも全体像の中では問題にならないこと、自分たちがフォーラムに必要な不可欠な貢献をしているということ——こうしたことを代表団全体が一人ひとりにフィードバックしました。これが拠点となって、自信をなくしたりお互いに疎遠になったりする重い傷をディスチャージすることができ、正しい現状理解を回復し保ちつづけることができたのです。

わたしたちの活動の中で、リスニングプロジェクトは特に重要な部分でした。一人ひとりが毎日数回にわたってこれにたずさわりました。自分自身の大きな傷に抗して出かけていき人々に出会い、そして RC や UER について言葉を尽くして語ったのです。私たちは、人々が抑圧の一番重い傷を打ち明けられるような質問を書いたポスターを掲示しました。わたしたちは徐々に、大胆かつ柔軟に参加者と関わり、自分のことを打ち明けることができるように励ましたのです。たくさんの人々が心を開いてディスチャージし、最終的に、わたしたちの開いたワークショップに参加して、わたしたちの活動についてもっと知りたいたいと興味をもってくれたのです。

今回のリスニングプロジェクトは、私が今まで行ってきたものに大きな改善を加えることができました。これを行った場所は、UER のチラシや地図のある所から少し離れたところにしました。そうすることで RC の立場を押し付けられるのではないかという懸念をもたずに、わたしたちのところにきて話すことができたのです。さらに展示テーブルで（ホテルのコーヒーテーブルや芝生に敷いた敷物のところに準備しました）わたしたちの活動についてもっと詳しくお知らせし、またワークショップについても伝えることができました。

リスニングプロジェクトから多くの人々がワークショップに来てくれました。しかもたくさん聞いてもらうという体験をした後で参加したのです。

わたしたちの活動のメインは2時間のワークショップで全部で4回行ないました。人々にここに来てもらうことがすべての活動の目的でした。ワークショップではRCの理論について更に学ぶことができ、少なくとも2人のリーダーに会って話を聞き、今まで知らなかった考え方を複数の人から知り、少なくともひとりのリーダーと親しくつながることができたいと思います。参加者はミニセッションを体験し、デモを見ました。またわたしたちが心をつなげて互いに配慮しあっている様子を見、数年にわたるディスチャージの成果を目の当たりにしたことだろうと思います。4つのワークショップはそれぞれ別のものでしたが、UERやRCを伝える上で優れたものでした。それぞれ50名から100名の参加者がありました。

二つ目のワークショップが終わったあとで、内容構成の変更を行ないました。抑圧がどれだけ人間を傷つけているのか、そこからの解放のためにディスチャージがいかに必要であるかをもっと話すようにしました。わたしが代表団のメンバーにディスチャージや再評価の過程について十分に説明するように要求したとき、彼らからたくさんの感情が湧きあがったのですが、彼らはわたしのチャレンジを受け入れ、激しくディスチャージし、やり方の変更を速やかに行なうことができました。

これまでのUERの活動と比べて、はるかに高い割合で人々と関わり、RCにつなげることができました。その理由として、ワークショップの前段階で人々とうまく関わることできたことがあげられるだろうと思います。（そのほとんどがリスニングプロジェクトと展示テーブルでした。少なくとも2人はそこにいて切れ目なく人々と会話を交わしました。）さらに、ワークショップのチラシが良くできていて私たちがしていることをうまく伝えることができたこともその理由だと思っています。もうひとつの理由は、私たち全員が（ワークショップのリーダーも含めて）より良い形でコミュニケーションが取れたということです。はじめのうちワークショップに初めて参加した人々は、居心地悪そうに体を動かしていました。自分のことについて話したりディスチャージしたりすることに抵抗があったのです。けれども、わたしたちの活動を知りミニセッションでいくらかディスチャージするにつれて、「感情を扱う」ことなど思いもよらなかった人々が、私たちが提供することからの合理性と有効性に魅せられていきました。

わたしはこの5年間、多くのRCの活動を行ない一致を作り出してきました。とくに階級差別や人種差別を終わらせるために働いてきました。あらゆるバックグラウンドから経験を積んだコウカウンセラーが集まるクラスやワークショップでは、彼らが向き合うべきハ

ハーヴィーの掲げた目標に向き合うよう求めてきました。「階級や人種の障壁を越えて一致を生み出すためにわたしたちは働いているのであって、すべての階級の人々を巻き込んだ運動を作り出し、大衆運動として理性的な社会を生み出すことに寄与しなければならない。」この言葉は、使命を帯びたグループがともに強調して行動するに際して、何が理想であるかを明確にすることに役立つものでした。互いに固く結びつき、互いに支えあい、あらゆる抵抗に対して肩を組んで前進するために…。このフォーラムでわたしたちが行なったことは、ハーヴィーの目標を実現するためになしえた最善のことであり、わたしの人生の中で最高のことでした。愛すること、尊敬すること、前進させること、支えること、守ること、互いに自己開示すること、これがわたしたちのなし得たことです。わたしたちは自分自身に挑戦し、それぞれがそれぞれの責任を果たしました。楽しみました。一緒に働きました。この一週間は、わたし自身、これまでにないくらい知性的であることができたし、「あるがままの自分」でいることができました。代表団の仲間と囲まれて、限界を乗り越え、共通の夢を実現するために全員が力を合わせることもできたおかげです。

ダイアン・シスク
再評価カウンセリング・コミュニティ国際照会者代理
アメリカ合衆国ワシントン州シアトル

Pushing our limits, together

Leading the United to End Racism Delegation to the US Social Forum

プレゼントタイム 2007年10月 23 - 24 ページ号より

Diane Shisk

訳：早坂文彦

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります（翻訳2008年。原文2007年）。

この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。